

キトウシの森で健康とー初の森林療法シンポジウム

11月22日、キトウシ森林公園森林体験研修センターを会場に、初の森林療法シンポジウムを開きました。

森林体験研修センターの落成に合わせて、町とNPO（特定非営利活動）法人北海道森林療法研究会（理事 長・住友和弘旭川医大教授）が共催しました。



森林環境を利用した森林療法と健康づくり、キトウシ森林公園の活用方法を探るのが狙い。①ドイツ視察報告②森林療法の事例報告③キトウシ森林公園活用の考察ワークショップ④東北芸術工科大、京都造形芸術大の山崎亮両大学教授特別講演に分けて発表、討議しました。

ト数値が最大9ポイントも改善した」など効果事例も出ました。

キトウシ森林公園の活用方法を探るワークショップではクア・パークにする課題などを探りました。

「日本では言葉のなじめさえないので、イメージを作ろう」「足湯を造ろう」「専門的相談、健康状態チェック、医療機関と連携する総合案内、コンシェルジュを配置」など多彩な意見が出ました。

日本旅行写真家協会、山口会長が講演

11月17日、ひがしかわ道草館で日本旅行写真家協会、山口勝廣会長が「デジタル時代の写真著作権」と題して特別シンポジウムを開き、著作権問題を巡る昨今の現状と課題などを話しました。

「著作物、発表場所が従来の紙媒体からデジタル媒体に移行しており、ウェブ上では国境がないため一度出してしまうと世界中を回ってしまい保護できない」「フェイスブック、ツイッター、ラインなどSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）は、著作者人



格権を一方的に譲渡する規定があるため、掲載したものは著作権を主張できない」などと著作権の保護、保障措置に対する問題点と課題を指摘しました。

6年ぶり東川開催となった同協会定期総会に併せて開きました。

フォトライブラリー写真家、旅行写真家など同協会加盟のプロ写真家約40人が来町しました。2泊3日の滞在期間中、美瑛、上富良野、東川町内の初冬の自然などを撮影する撮影会も行いました。

佐藤のりさんと5年ぶりに東川演奏会

東川小学校と地域交流センターの落成を記念して、町、町教育委員会は11月15日、地位交流センターで箏・三絃・尺八コンサートを開きました。

札幌を拠点に活動している札幌・新音楽集団「群」（佐藤のり子代表）が来町しました。同センター交流プラザを会場に、約200人が来場、和楽器の調べを楽しみました。

5年ぶり3回目の公演は、同センターこけら落としの演奏会。落成祝賀として箏、三絃、尺八の合奏「東獅子」（峰崎旬当作曲）をエピソードに、豊かな田園の町・東川にふさわしいフィナーレとして箏、十七絃、尺八の



合奏曲「実りの秋」（山川園松作曲）など6曲を披露しました。

同センターは留守家庭児童館としての機能を持つていて、約20人の小学生も一緒に聞き入り、和の調べに食い入るように聞き入っている子も。

大規模土砂災害に備えて防災訓練

10月31日、大規模土砂災害の発生と対処を想定して、町内で防災訓練を実施しました。

「大規模な土砂災害で天人峡地区が孤立」という想定で①緊急情報を実施して孤立地区にラジオ放送で情報伝達（総務省北海道総合通信局と東川町がFM臨時災害放送）②図上合同防災訓練（国土交通省旭川開発建設部主体で上川総合振興局、東川町、美瑛町）の2つの防災訓練を同日実施しました。



ラジオ放送が溪谷の狭い地形でも災害時に有力な情報伝達の手段であることを確かめました。

3年前、忠別川上流のノカナン地区で、急激な豪雨に伴って土砂災害が発生。道路、通信網が寸断して1人が死亡、天人峡旭岳両温泉地区の宿泊客ら323人が孤立する災害が発生しています。

おめでとう、8千人目の峻太ちゃん

8千人目の町民が誕生しました。1972（昭和47）年以来42年ぶりの人口8千人回復となり、11月6日役場庁舎ロビーでお祝いしました。

記念の町民となったのは鈴木峻太ちゃん（0歳）と南町4丁目。お母さんの香織さんが松岡市郎町長から8千人目の町民認定書と商品券、そして「君の椅子」のプレゼント、東川町農協の宮崎俊章参事から1年分の東川米の新米（60キログラム）をもらって「えっ、こんなにいっぱい！」とうれしいサプライズ。



この間、峻太ちゃんはお父さんの豪さんの腕にしっかりと抱かれ「スヤスヤ」。周りの騒ぎはどこ吹く風と大器の片りん(?)を見せていました。

10月22日、予定日より6日早く2千875キログラムで生まれました。名前の「峻」の字は目の前から見える大雪山の風景にあやかっただけです。

今年6月、旭川市内から転入してきました。「自然が豊かで暮らしやすい、すくなく良い町」と峻太ちゃんの成長を楽しみにしています。

「子育てと教育を担う首長の会」の研究會開く

10月30、31の2日間「子育てと教育を考える首長の会」（共同代表・門川大作京都市長、松岡市郎東川町長）主催の第7回研究会を農村環境改善センターで開きました。

子供が元気いっぱい外で遊ばないのはおかしいなどと全国48自治体の首長が賛同。今年は21自治体の首長ら約

50団体200人が出席しました。

恵庭幼稚園（恵庭市）の井内聖園長が基調講演。「学校で教えるのは学力。社会で必要なのは人とつながる知恵と生活



のための知恵」「うちの子どもたちはよく遊ぶ。遊ぶために工夫をするから学力は間違いなく高まる」などと強調しました。

東川は林万里教育長が町の取り組み実践報告と、完成した東川小学校、地域交流センターの新たな役割、学者連携の取り組みなどを発表しました。